

人権学習展開例〔第2学年〕

1 主 題 命の尊さを学ぶ

2 教材名

19 つながる つながる

3 主題・教材について

自分の命につながりのある人は、親や祖父母までぐらいいしか想像できない子どもが多くいると考えられる。そこで、この教材を学習することで、命のつながりが長く続いていることに気づき、自分が多くの人たちの命を受け継いでおり、自分もそのつながりの中にいることを感じ取らせたい。さらに、多くの人の命を受け継いだ自分の命も、友だちの命も、同じように尊いものであることに気づかせたい。

（関連教科・領域：生活科、道徳）

4 ねらい

- ・自分とつながる多くの人がいて、今の自分がいることに気づく。
- ・自分の命も、友だちの命も同じように尊いものであることに気づく。

5 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導 入	自分の家族や親戚のことを何人ぐらい知っているかな。		
	・自分とつながりのある人を思い浮かべる。	・父母、姉妹兄弟、祖父母、おじ・おば、いとこ等、つながりのある人がたくさんいることに気づかせたい。 ・様々な家族形態があることに配慮する。	
展 開	・教材「つながる つながる」を読む。		
	自分の命はひいおじちゃん・ひいおばあちゃんまでで、何人とつながっているのだろう。		
	・56～57ページの絵で確認する。	・指でたどらせながら、つながる人数を確認させていく。 （両親2人、祖父母4人、曾祖父母8人） ・一人の命が生まれるのに2人が必要であることに気づかせる。 ・亡くなったり、離れて暮らしたりしている場合も、命が誕生するときには2人必要であることを説明する。	
	もしつながりのある人が1人いなくなったらどうなるのだろう。		
開	・命のつながりが1人切れるとどうなるかを考える。	・56～57ページの絵の中のある人物をかくし、指でたどらせながら、その後のつながりが消えていくことを確認させる。	
	みんなは何人の人とつながっているのだろう。		
ま と め	・自分とつながりのある人の数を想像する。 ・自分の命も友だちの命も、多くの人の命を受け継いでいるに気づく。	・56～57ページの絵の上にもつながりがあることを説明し、自分とつながりのある人の数の多さに気づかせたい。	
	自分の命や友だちの命について考えてみよう。		
	・命について感じたことを発表しよう。	・自分も友だちも命を受け継いでいく一人であり、自分の命も友だちの命も、かけがえないものであることに気づかせたい。	

【教材の出典】サンマーク出版『いのちのまつり』作：草場一壽 絵：平安座 資尚